

# 平原方形周溝墓出土内行花文鏡 複製

伊都歴史資料館 所蔵

前原市教育委員会

国宝指定

考古資料・複製

平原遺跡銅鏡

平原方形周溝墓出土内行花文鏡

複製



国内最大級の鏡で、現地での出張作業でした。まるでLPレコードのような鏡でした。型取り→成形→仕上げ→彩色の工程を経て完成にこぎつけました。レプリカは完形品です。

平原遺跡（ひらばるいせき）は、福岡県前原市にある弥生時代から古墳時代ものと考えられる遺跡です。

この遺跡は伊都国の王墓と考えられる1号墓を中心とした墳墓遺跡で、昭和40年（1965）に発見されました。1号墓は弥生時代後期～終末（約1800～1900年前）に造られたもので、副葬品は銅鏡39枚、鉄刀1本、ガラス製勾玉やメノウ製管玉などの玉類が多数発見されています。銅鏡のなかには直径46.5cmの内行花文鏡（日本製）が4枚ありますが、これは日本最大の銅鏡です。その他の銅鏡もほとんどが中国製で非常に貴重なものです。また、ひとつの墓から出土した銅鏡の枚数も日本一で、伊都国王の墓にふさわしい内容です。

KYOTO KAGAKU CO.,LTD  
Preservation and Restoration of Cultural Property

tel.075-605-2510  
fax 075-605-2519  
rw-kyoto@kyotokagaku.co.jp

<http://www.kyotokagaku.com/jp>  
[rw-kyoto@kyotokagaku.co.jp](mailto:rw-kyoto@kyotokagaku.co.jp)



株式会社 京都科学